

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和3年1月25日現在

今月の重点活動

■夏秋トマト 生産者を対象とした個別面談の実施

飛騨地域の各地区トマト部会（高山、丹生川、清見荘川、南大野、吉城、高原）で、トマト栽培のない冬期を利用し、部会に加入している生産者全員を対象とした個別面談が実施された。

面談は地区を担当するJA営農指導員と普及指導員が連携して対応し、作型、品種、施肥設計、管理の方法、病虫害対策等について個々の実態を整理し、次年度作に向けて、問題点の改善やさらなる発展に向け目標設定を行った。

設定した目標は次年度作における巡回の中で達成に向けて助言する予定である。

特に高山地区では、設定した目標を個々のほ場にプレートで掲げるため、部会員の目標達成に向けた意識向上が図られている。



【個別面談の様子】

多様な担い手づくり

■飛騨市認定農業者の会 安定経営に向けて研修会を開催

飛騨市内の認定農業者からなる飛騨市認定農業者の会は、1月14日に研修会を開催した。今年度は会員の経営の安定と強化を図るため、農業共済組合の担当者と税理士を講師に招き、「収入保険」と「農業経営の法人化と社会保険」について研修を行った。参加した認定農業者は、双方の講師からの詳しい解説に耳を傾け、各自の経営安定に向けて参考にしていた。

農業普及課では、認定農業者への会の活動を支援する他、経営改善計画の審査に参加するなど認定農業者の認定を支援しており、今後も認定農業者の増加に向けて支援を継続していく。



【税理士による講演】

■担い手 青年等就農計画審査会を実施（高山市）～認定新規就農者の認定～

高山市就農支援会議では1月19日に、青年等就農計画の認定審査会を実施した。

審査会では夏秋トマト6名（うち夫婦1組）、いちご1名、パプリカ1名、マイクロハーブ、エディブルフラワー等1名の計9名が、自ら作成した計画をもとに、「経営開始後早期に地域の平均以上の栽培技術を習得したい。」「栽培技術だけでなく経営能力を身に付けたい。」「経営が安定したら6次産業化に取り組みたい。」等の将来の農業経営の構想等について説明した。

農業普及課では、自主性を尊重した就農計画の作成について支援を行ってきた。新規就農者が経営開始後早期に栽培技術、経営管理能力を習得できるように継続して支援を行っていく。



【将来の農業構想を説明】

■新規就農 飛騨市で就農希望者との面談を実施

1月22日、飛騨市内で独立就農(夏秋トマト)を希望している女性と関係機関(飛騨市、JAひだ、農畜産公社、農業普及課)で面談を行った。

面談者は県農業大学校を卒業後、高山市内の農業法人で雇用就農しており、2年後に飛騨市で独立就農したいとの意向が強く、雇用主のすすめもあって今回の面談に至った。

面談では、面談者から就農への強い意気込みが語られるとともに、関係機関からは就農に向けてのスケジュールや注意点などを説明した。

農業普及課では今後、関係機関と連携しながらスムーズな就農に向けて支援を行っていく。



【就農への意気込みを語る就農希望者】

売れるブランドづくり

■県GAP 維持審査を実施

飛騨農林事務所管内では、15件(個人・組織)が岐阜県GAPの確認を受けており、年に1回、GAP指導員資格を持つ普及指導員が維持審査を実施している。

そのうちの1戸の審査を1月22日に実施した。農場管理基準で定める54項目について聞き取りや現地確認により審査を実施したところ特に不備は確認されず、適正な管理が実施されていた。

令和2年11月より、ぎふ清流GAP評価制度の運用が始まっており、農業普及課では、持続性の高い農業経営を実現するためにぎふ清流GAP等の普及・指導を行う。



【農場管理基準に基づいて審査を実施】

■スナップエンドウほか 反省会で栽培の振り返り

1月22日、丹生川蔬菜出荷組合野菜部会スナップ・モロッコ班の栽培反省会が行われ、令和2年度のスナップエンドウ・モロッコインゲン栽培を振り返った。今年度作は早春の低温による凍害や6月～7月にかけての降雨による規格外莢の増加の影響で、特に露地栽培における春のスナップエンドウ出荷量が激減した。普及課からはこれら気象要因の解説のほか、今後このような激しい気候変動に対応するための管理方法について説明した。スナップエンドウ産地の発展のためには、露地での安定した出荷量の確保が重要であることから、令和3年度作は露地の低温対策技術の検討を検討していくこととした。



【新型コロナ対策を講じたうえで開催】

■ 6次産業化支援 **6次産業化チャレンジ研修**

1月19日、6次産業化に取り組む、または、興味のある農業者を対象に「6次産業化に取り組むための経営の基礎研修」を開催し、10名の方が出席した。

当日は、社外社員計画株式会社の中畑久美子氏より、財務三表や経営指標などの数字の見方や価格の決定方法、チャネルの選択方法について講義していただいた。

参加者は経営分析に必要な数字の計算練習等の個人ワークにも真剣に取り組んでおり、研修終了後にも講師へ質問するなど、積極的に参加していた。

農業普及課では引き続き6次産業化に取り組む農業者を支援していく。



【個人ワークに取り組む参加者】